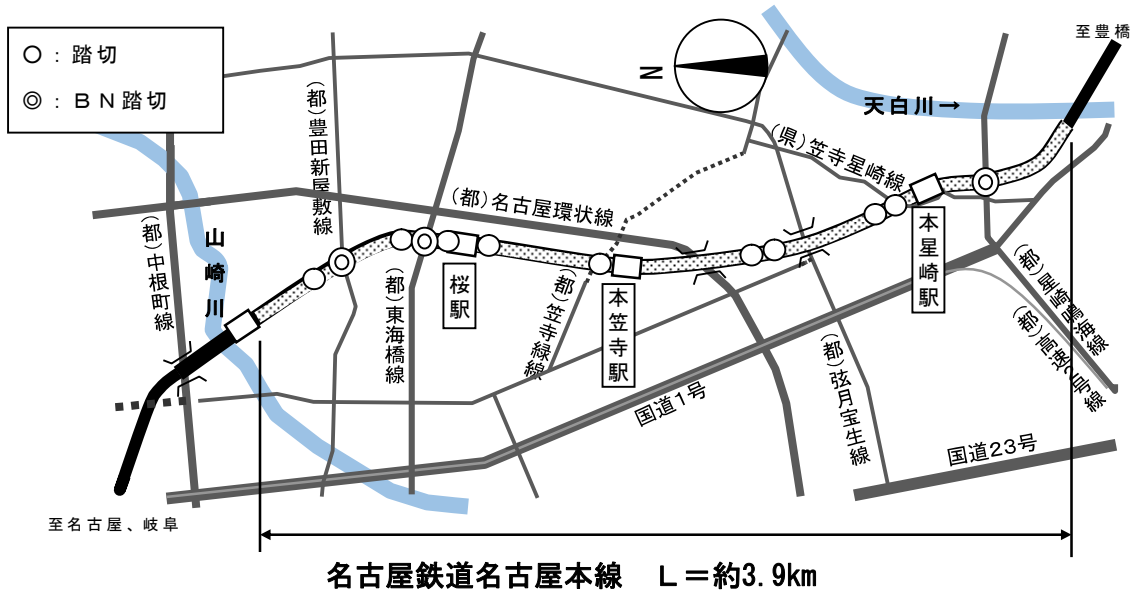


再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

事業名	連続立体交差事業 名古屋鉄道名古屋本線（桜駅～本星崎駅間）	事業区分	連続立体交差	事業主体	名古屋市
起終点	自：名古屋市南区呼続二丁目 至：名古屋市南区阿原町	延長	3.9 km		
事業概要					
<p>本事業は、名鉄名古屋本線桜駅から本星崎駅付近を連続立体交差化し、踏切12箇所（うちボトルネック踏切3箇所）を除却することにより、交通の円滑化及び安全性の向上を図るとともに地域分断を解消し、地域の活性化を図るものである。</p>					
事業化	—	都市計画決定	—	用地着手	—
工事着手	—				—
全体事業費	約670億円	事業進捗率	0%	供用済延長	0 km
計画交通量	435,185台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 1.3	(残事業)/(事業全体) 225/232億円	(残事業)/(事業全体) 295/295億円	令和5年	
	(残事業) 1.3	事業費：224/231億円 維持管理費：1/1億円	走行時間短縮便益：244/244億円 走行経費減少便益：26/26億円 交通事故減少便益：25/25億円		
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.2～1.4（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=1.2～1.4（交通量±10%） 事業費：B/C=1.2～1.4（事業費±10%） 事業費：B/C=1.2～1.5（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.3～1.3（事業期間±20%） 事業期間：B/C=1.3～1.3（事業期間±20%）</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・踏切12箇所（うちボトルネック踏切3箇所）が除却され、踏切による交通渋滞や事故が無くなることにより、交通の円滑化が及び安全性の向上が図れる。 ・地域分断が解消され、地域の活性化が図れる。 					
関係する地方公共団体等の意見					
—					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当とする。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
特に周辺環境等に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
鉄道事業者等関係機関との協議を鋭意進めている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
<p>鉄道事業者等関係機関との協議及び調整に時間を要している。 今後は都市計画手続き及び環境影響評価手続きを行い、早期に事業化していく予定である。</p>					
施設の構造や工法の変更等					
設計の段階から可能な限り工事費の縮減に努める。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由					
<p>本事業は名鉄名古屋本線の12箇所の踏切を取り除くことにより、渋滞や踏切事故の解消及び地域分断の解消などを図る事業効果の非常に高い事業であり、早期事業化を目指す必要があるため。</p>					

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。